



決算説明会

業績概要・経営方針

2007年度決算
(2007年4月1日～2008年3月31日)

2008年5月14日(水)

代表取締役社長 庄田 隆



第一三共株式会社

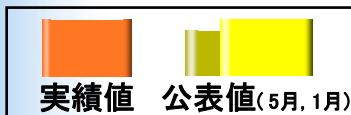
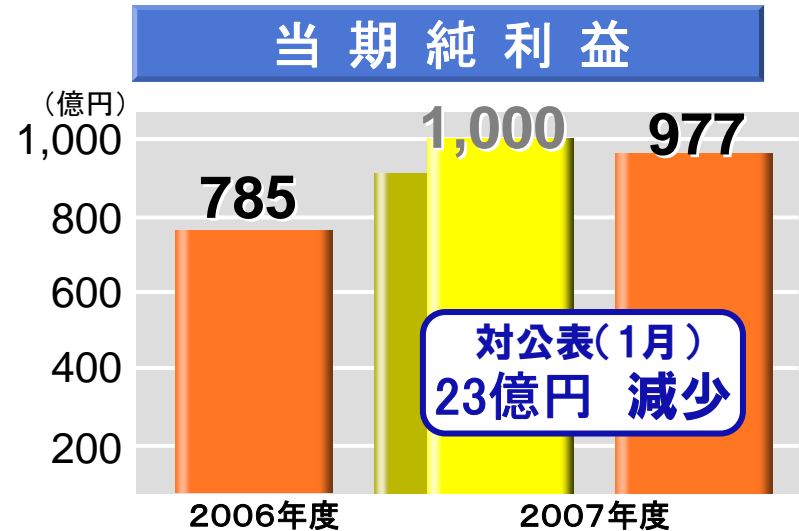
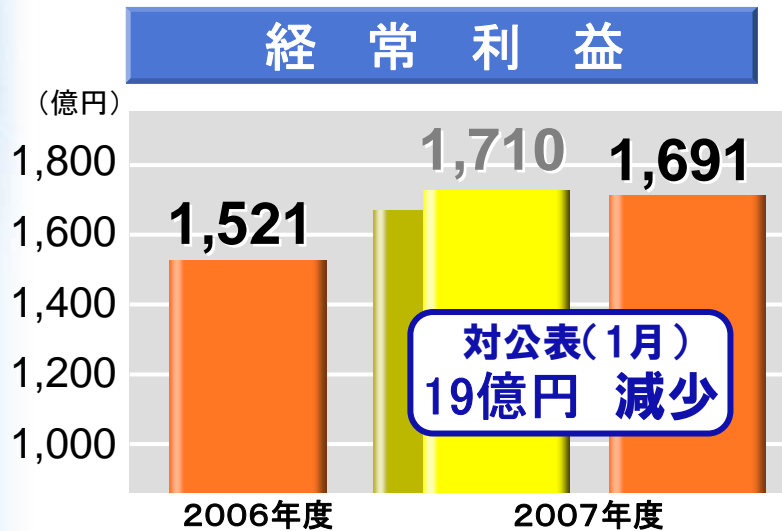
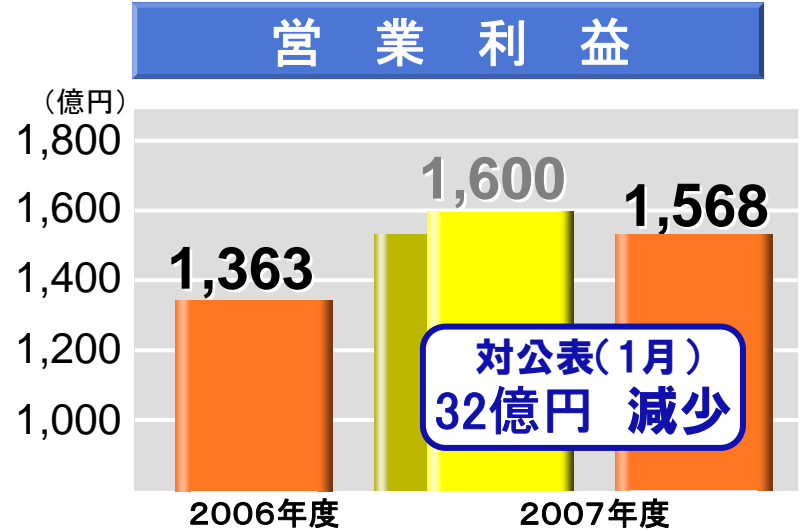
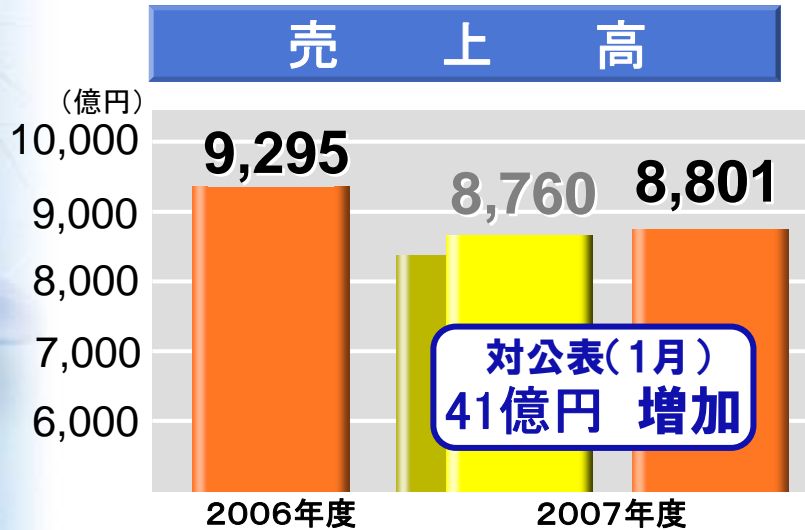


決算概況



第一三共株式会社

2007年度連結業績(実績)の概要



注: 決算期の変更により、2007年度はDSEについて、また2006年度はDSI, LPIIについて3カ月分の業績が加算されています。

主要製品の推移

(単位：億円)

商品名	2006年度 実績	2007年度 予想 (1月公表)	2007年度実績				
			年度	対前年増減			
				対予想(1月) 差異	対'06	参考値	
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,603	2,020	1,956	-64	353	445
	レボフロキサシン<合成抗菌剤>	1,041	1,100	1,087	-13	46	
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	935	790	765	-25	-171	-187
日本	カルブロック <高血圧症治療剤>	88	115	102	-13	14	
	アーチスト <高血圧症治療剤>	193	220	211	-9	18	
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	122	130	124	-6	2	
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	309	350	336	-14	27	
	オムニパーク <造影剤>	315	320	312	-8	-4	
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	23	75	54	-21	32	
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	377	285	311	26	-66	3
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /糖尿病治療剤>	232	240	227	-13	-5	34

注：決算期の変更により、2007年度はDSEについて、また2006年度はDSI、LPIについて3カ月分の業績が加算されていることから、その影響を除外した増減額を参考値として表示しています。

増減の理由(2006年度実績 ⇒ 2007年度実績)

1. 連結売上高 8,801億円 (-494億円, -5.3%)

■ 特殊要因 (-896億円)

- 非医薬品事業の外部化 (-722億円)
- '06 米国子会社決算期変更 (-315億円)
- '07 欧州子会社決算期変更 (+141億円)

■ 主要製品の売上拡大等 (+402億円)

- オルメサルタン (+445億円)
- レボフロキサシン (+46億円)
- プラバスタチン (-187億円)
- ウェルコール(+34億円)
- ユリーフ (+32億円)
- ロキソニン (+27億円)

2. 連結営業利益 1,568億円 (+205億円, +15.0%)

■ 上記特殊要因除外後の営業利益 (+350億円)

- 売上増加に伴う売上総利益増 +274億円
- 総経費 -76億円 (内研究開発費 -9億円)
 - ・ 海外事業基盤強化(DSI +182億円, DSE +81億円) などの先行投資を上回るコストシナジー顕在化

3. 当期純利益 977億円 (+191億円, +24.3%)

- 特別利益 -574億円 関係会社株式売却益 '06(593億円)→'07(87億円)
- 特別損失 -803億円 事業統合・再編関連損失 '06(861億円)→'07(122億円)
- 法人税等 +210億円 税引前利益に対する率 '06(37.9%)→'07(41.4%)

業績差異の理由(対1月公表)

1. 連結売上高 8,801億円 (+41億円)

- 非医薬品事業 +156億円
- 医薬品事業製品売上 -115億円 (国内 -158億円, 海外 +43億円<内為替影響 -23億円>)
 - オルメサルタン (-64億円)
 - レボフロキサシン (-13億円)
 - プラバスタチン (-25億円)
 - ユリーフ (-21億円)
 - ヴェノファー (+26億円)

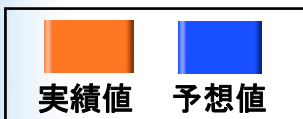
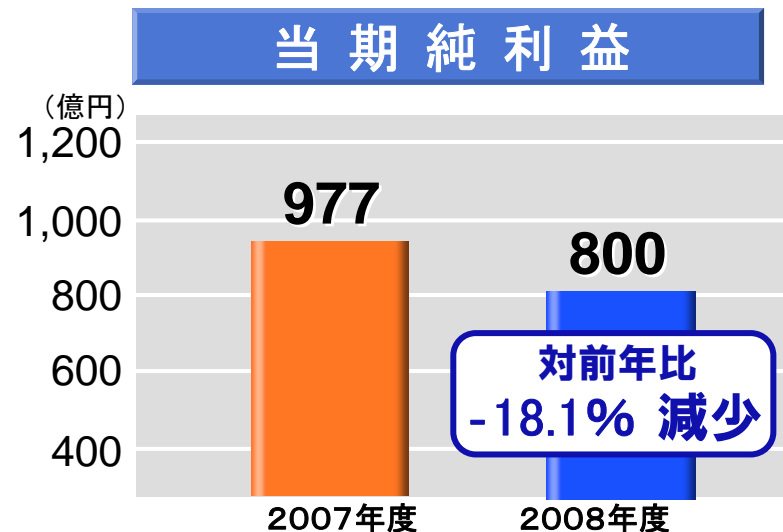
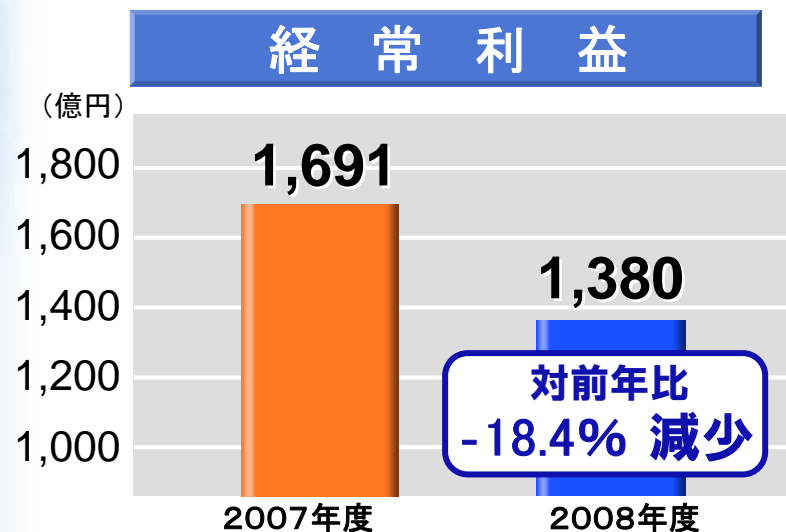
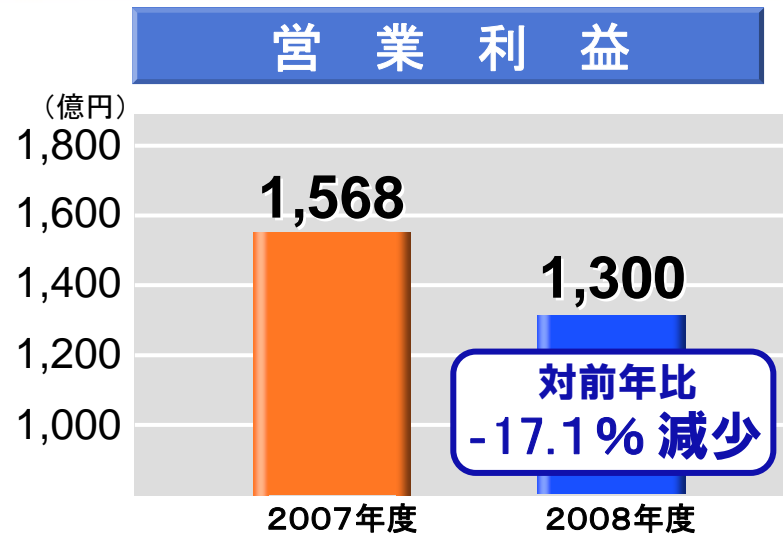
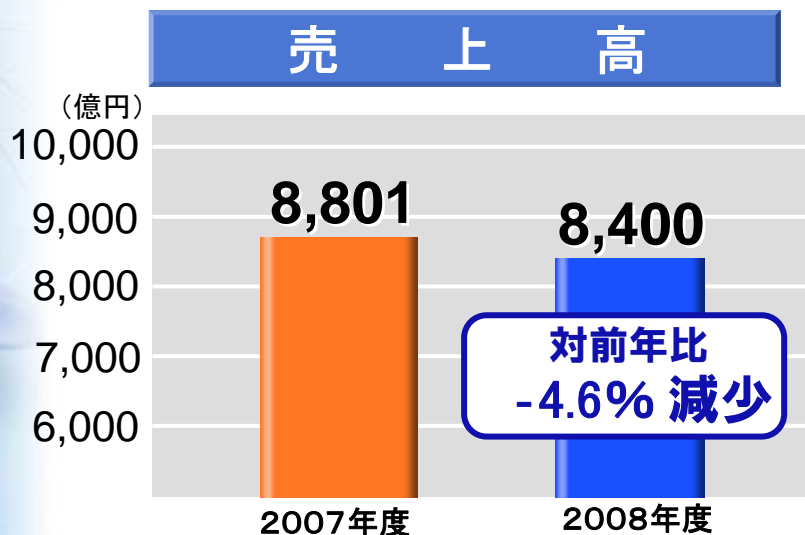
2. 連結営業利益 1,568億円 (-32億円)

- 原価率 25.2%→26.7% (売上増ながら売上総利益は -95億円の減少)
 - 事業構成・製品構成の変化
 - 棚卸資産低価法評価損を原価に計上
- 総経費 -63億円
 - 研究開発費 (-80億円) 為替影響等

3. 当期純利益 977億円 (-23億円)

- 営業外収益 +30億円 運用益等増
- 営業外費用 +18億円 DSI 擬似ストックオプション評価損等
- 特別利益 +61億円 関係会社株式売却益 +64億円
- 特別損失 +33億円 事業統合・再編関連損失等増

2008年度連結業績(予想)の概要



注: 決算期の変更により、2007年度はDSEについて3カ月分の業績が加算されています。

主要製品の売上高計画

(単位：億円)

商品名		2007年度 実績	2008年度予想			
			上半期	年度	対前年増減	
					対'07	参考値
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,956	1,000	2,140	184	248
	レボフロキサシン<合成抗菌剤>	1,087	500	1,040	-47	
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	765	330	625	-140	-124
日本	カルブロック <高血圧症治療剤>	102	70	140	38	
	アーチスト <高血圧症治療剤>	211	110	220	9	
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	124	60	140	16	
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	336	190	390	54	
	オムニパーク <造影剤>	312	140	280	-32	
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	54	40	90	36	
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	311	115	230	-81	
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /糖尿病治療剤>	227	115	250	23	

注：決算期変更により2007年度はDSEについて、2007年1月～2008年3月の15ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を参考値として表示。

増減の理由(2007年度実績 ⇒ 2008年度予想)

1. 連結売上高 8,400億円 (-401億円, -4.6%)

■ 特殊要因 (-461億円)

- 非医薬品事業等の外部化 (-320億円)
- 欧州子会社決算期変更 (-141億円)

■ 医薬品事業 (+60億円)

減少要因

- 薬価改定 -270億円
- 円高(1\$=114.3円→100円) -340億円
- 販売移管(コバシル, ザンタック等) -130億円
- '07一時金収入(パナルジン等)
- フロキシシオティックのジェネリック参入('07年10月) -50億円
- カンプトサーのコ・プロモーション終了('08年2月)

増加要因

- 既存品の数量拡大
 - ・オルメサルタン(+248億円)
 - ・ユリーフ(+36億円)
 - ・カルブロック(+38億円)
 - ・リバロ(+25億円)
- 新製品, 販売テリトリー拡大等
 - ・エフィエント
 - ・グレースビット
 - ・ロキソニンテープ
 - ・ウェルコール(糖尿病)
 - ・エビスタ

薬価改定と円高による影響を含む

増減の理由(2007年度実績 ⇒ 2008年度予想)

2. 連結営業利益 1,300億円 (-268億円, -17.1%)

■ 上記特殊要因除外後の営業利益 (-251億円)

● 総経費の増加 (+257億円)

● 研究開発プロジェクトの進展による開発費の増加 (+66億円)

● 欧米での新製品発売に向けた先行投資が拡大 (+197億円)

・DSI MR数 900名(2007年4月)→1,550名(2008年3月)→1,870名(エフィエント発売時)

・DSE MR数 830名(2007年4月)→830名(2008年3月)→1,080名(2009年3月)

● '07年度人件費(国内)は制度一元化に伴う退職給付債務の圧縮と、その一括償却により一時的に減少。

3. 当期純利益 800億円 (-177億円, -18.1%)

● 営業外収益 -60億円 運用益等減

● 営業外費用 -18億円 擬似ストックオプション評価損等減

● 特別利益 -131億円 固定資産売却益減 -50億円 ('07大阪物流センター)

関係会社株式売却益減 -87億円 ('07埼玉第一, 第一ファインケミカル, 日本乳化剤, 中日合成)

● 特別損失 -128億円 事業統合・再編関連損失減 -122億円

● 法人税等 税引前利益に対する率 '07(41.4%)→'08(41.0%)

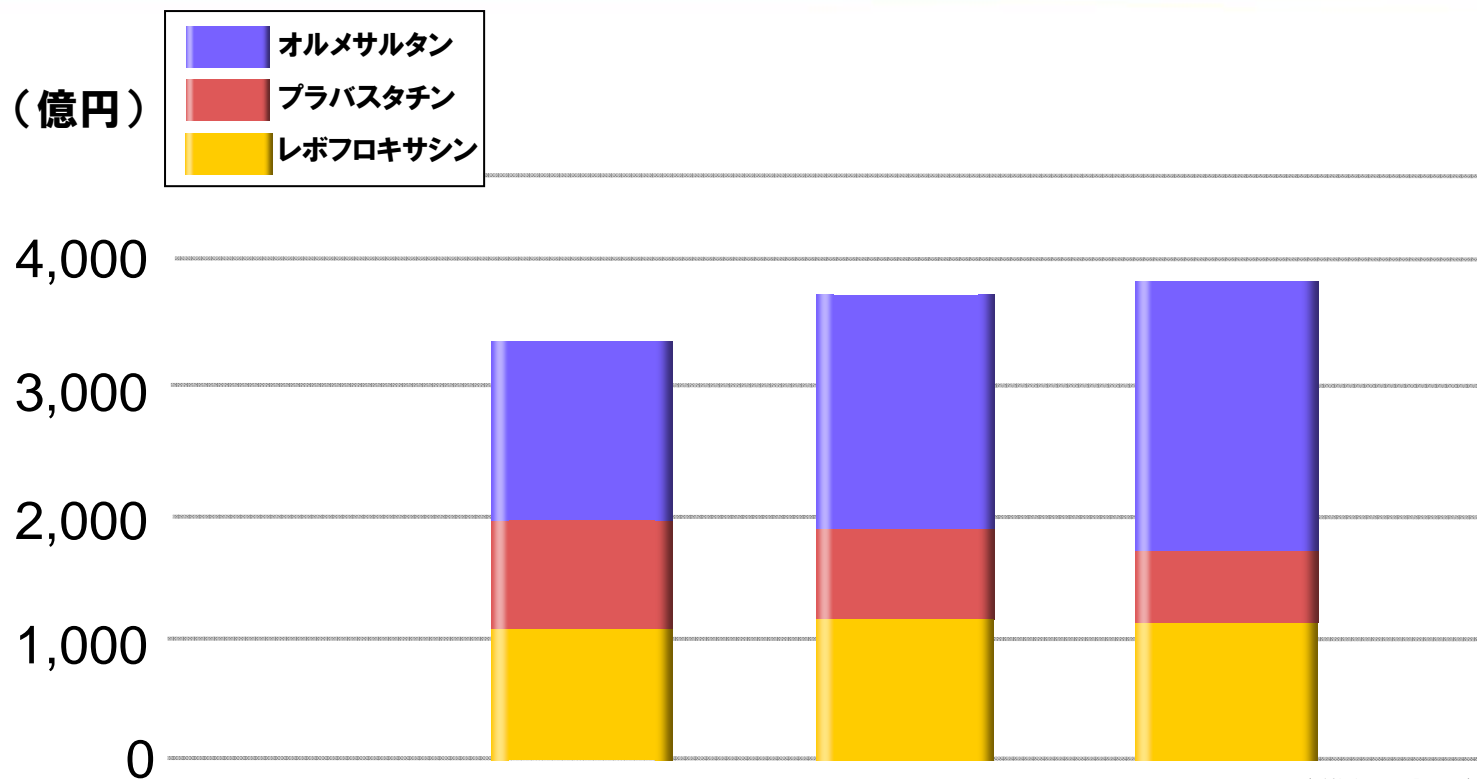
主要経営指標

	単位	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 予想
1株当り当期純利益	円	107.75	135.35	(111.27)
1株当り配当金（年間配当）	円	60	70	80
配当性向	%	55.7	51.7	71.9
期末発行済株式数	百万株	735	735	(735)
総資産	億円	16,368	14,878	
純資産	億円	12,721	12,445	
自己資本比率	%	77.5	83.6	
純資産配当率（DOE）	%	3.5	4.0	
自己資本当期純利益率（ROE）	%	6.3	7.8	
現金等期末残高	億円	5,132	4,524	

この後 P10からP12につきましては、業績推移の比較を容易にするために欧米子会社3社の決算期変更による影響を除外し、各年度とも12ヶ月分の業績として記載しております。



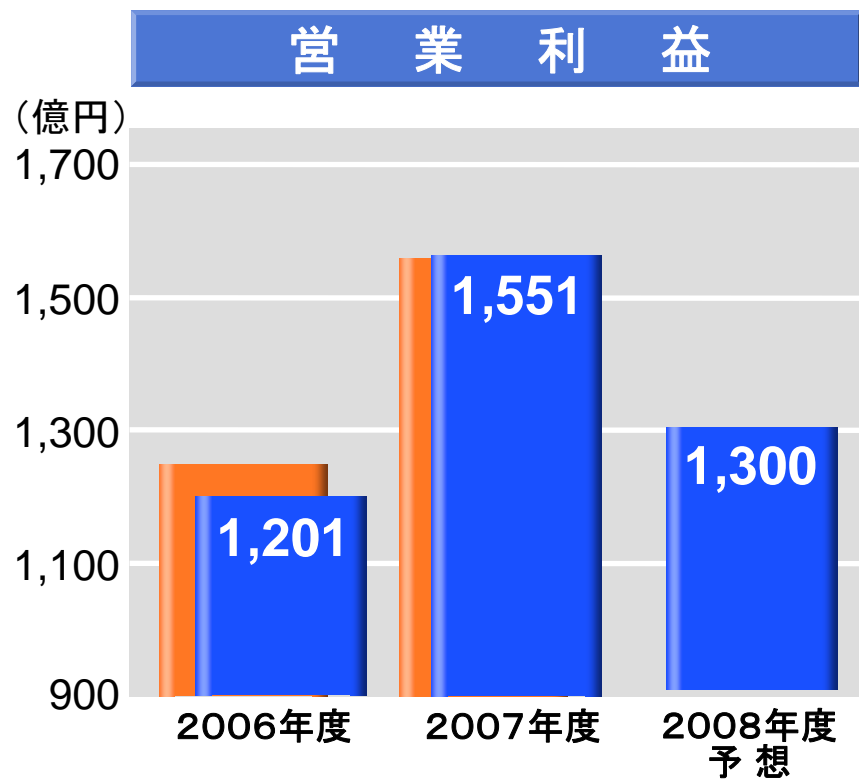
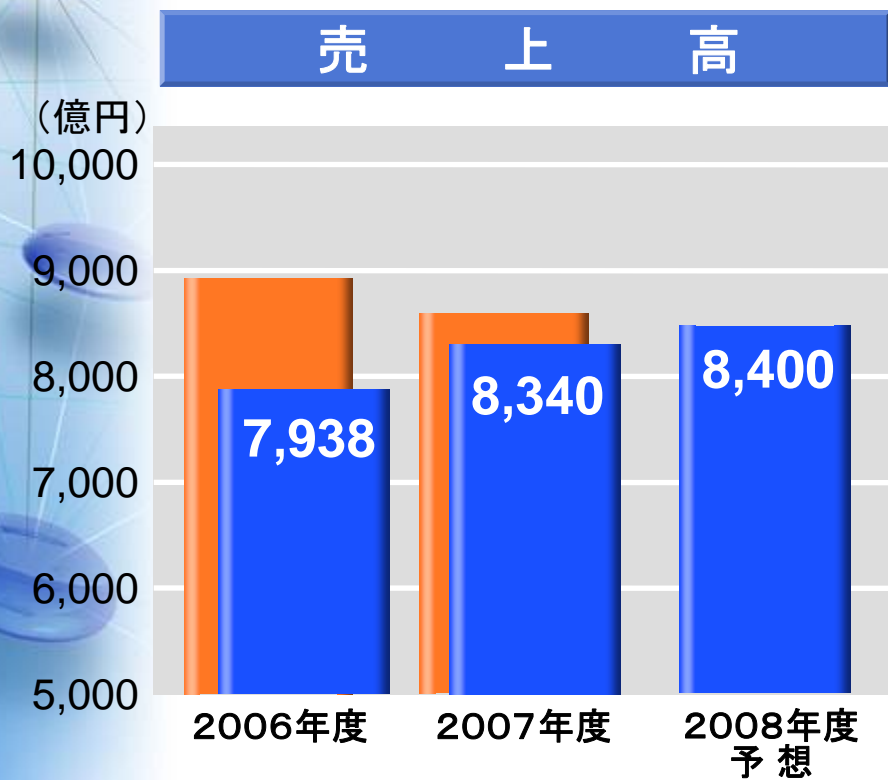
第一三共グループ 主力3品の推移



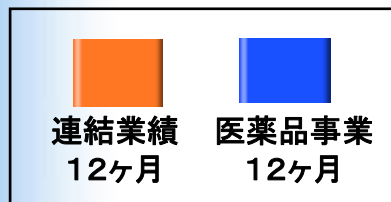
(単位:億円)

	2006年度	2007年度	2008年度予想
合 計	3,423	3,728	3,805
オルメサルタン	1,447	1,892	2,140
プラバスタチン	935	749	625
レボフロキサシン	1,041	1,087	1,040

連結業績の推移(医薬品事業)

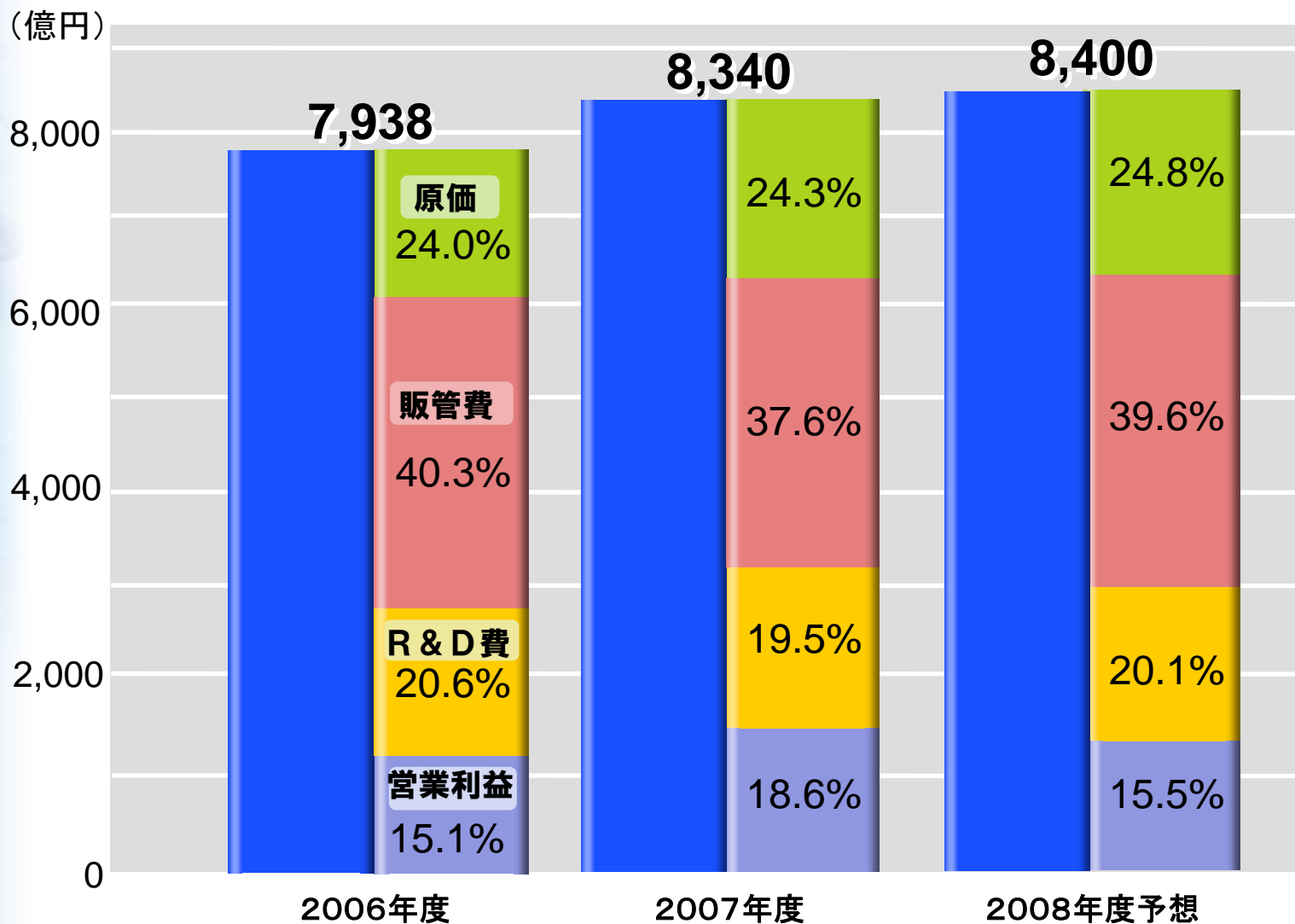


(単位: 億円)



(参考)	2006年度	2007年度	2008年度予想
売上高	7,938	8,340	8,400
営業利益	1,201	1,551	1,300
海外売上高比率	38.7%	40.6%	40.0%

医薬品事業の損益構造推移





研 究 開 発 パイプラインの状況



第一三共株式会社

主要開発プロジェクトの現況 ①

- **プラスグレル** (CS-747 : 抗血小板剤)
 - 2008 第1適応症 (PCI-ACS) ・米国 : FDAによる優先審査中
・欧州 : EMEA申請済 (2008年2月)
 - 2008. 2Q 第2適応症 (ACS-MM) 取得に向けた臨床試験 (TRILOGY) を開始予定
- **DU-176b** (経口抗Xa剤)
 - 2008. 3Q 非弁膜性心房細動 (NVAF) におけるP3試験を開始予定
 - 2008. 8月 欧州心臓学会議 (ESC) にて術後血栓塞栓症に関するP2b試験の結果を発表予定
- **デノスマブ** (AMG 162 : 抗RANKL抗体)
 - 2008. 2Q 骨粗鬆症を対象とするP3を開始 (予定)
 - 進行乳癌患者を対象とするP3国際共同治験を実施中
- **CS-8635** (オルメサルタン+アムロジピン+ヒドロクロロチアジド : 高血圧症治療剤)
 - 2008. 2Q 米国においてP3を開始 (予定)
 - 2009年 承認申請予定
- **リボグリタゾン** (CS-011 : 糖尿病治療剤)
 - 欧米においてP3試験実施中
 - 日本においてP2試験実施中

主要開発プロジェクトの現況 ②

■ 2月（RD説明会）以降の変更点

- 2008年3月7日 ロキソニンテープ（LX-P）承認取得
- 2008年3月27日 コラテジェン（HGF遺伝子プラスミド）
日本において末梢性血管疾患（PAD）を対象として承認申請
- SUN 13834 キマーゼ阻害剤
アトピー性皮膚炎の適応症取得を目指したP1実施中
- 開発中止品目
 - ・ DZ-697b 抗血小板剤
 - ・ DU-6859a inj ニューキノロン剤（米国）
 - ・ SUN E7001 2型糖尿病治療剤
 - ・ SUN 4936h (海外) 急性心不全治療剤
 - ・ SUN E3001 骨粗鬆症治療剤

主要開発品目一覧表

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	<ul style="list-style-type: none"> CS-8080 DB-772d 	<ul style="list-style-type: none"> <u>DU-176b</u> オルメテック/ 利尿剤合剤 (#) 	<ul style="list-style-type: none"> <u>CS-8635</u> オルメテック効能追加 (#) ＜糖尿病性腎症＞ オルメテック/カルブ'ロク合剤 (#) 	<ul style="list-style-type: none"> <u>フ'ラスク'レル</u> セビ'カー (欧)
糖代謝		<ul style="list-style-type: none"> AJD101 	<ul style="list-style-type: none"> リホ'グ'リタゾ'ン 	
感染症		<ul style="list-style-type: none"> CS-8958 	<ul style="list-style-type: none"> レホ'フロキサシ'ン注 (#) 	<ul style="list-style-type: none"> レホ'フロキサシ'ン 高用量 (#)
がん	<ul style="list-style-type: none"> CS-7017 ニモツ'マフ' (#) 	<ul style="list-style-type: none"> CS-1008 		
免疫・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> CS-0777 SUN 13834 			
骨・関節			<ul style="list-style-type: none"> <u>デ'ノスマフ' (#)</u> ロキソニ'ンゲ'ル (#) 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ヒトク'レリン 	<ul style="list-style-type: none"> メマンチ'ン塩酸塩 (#) シロト'シ'ン 	<ul style="list-style-type: none"> フェロン/リハ'ビ'リン 併用療法 (#)
合計	6	6	9	4

#: 日本でのみの開発

- グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- アンダーライン(青字)は現在の優先プロジェクト

● DC-159a (ニューキノロン剤)、CS-023 (カバ'ヘ'私系抗生物質) については導出検討中



2008年度の 主要経営課題



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

2008年度の主要経営課題 ①

■ 中期経営計画達成に向けた事業基盤の強化

- プラスグレルをはじめとした新製品の万全な上市対応と市場浸透
- 日本におけるクロスワイズ体制の進展による医療情報の効果的な提供と処方拡大
- 海外におけるセールスフォース拡充による主要品目の売上拡大、事業基盤の拡充
- 戦略的事業開発の継続的推進

■ 中長期の成長を支える新薬の開発促進と研究開発の戦略的基盤強化

- DU-176bをはじめとする優先開発品のオンスケジュールでの開発推進
- ポートフォリオマネジメント機能の強化による選択と集中の徹底
- 癌領域の事業開発推進、抗体医薬の研究基盤強化

2008年度の主要経営課題 ②

■ 業界最高水準の業務運営効率に向けての推進

- コスト構造改革とグループ調達の推進
- グローバルサプライチェーン体制の整備推進と原価低減の達成

■ 経営全般

- グローバルマネジメントの推進
- 新しい企業文化の浸透、社会的価値、人間的価値の向上

2008年度 第一三共主催 主要イベント

内容	日付
四半期決算発表	<ul style="list-style-type: none">・ 第1四半期：2008年07月31日・ 第2四半期：2008年10月31日・ 第3四半期：2009年01月30日
経営戦略説明会	2008年10月初旬予定
R D説明会	2009年02月下旬予定

* 四半期決算発表は東証への報告後、同日夕刻に
 テレフォンカンファレンスにて実施予定。(CC部)

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。